

人同連、詹狩野介者、參會路次、北條殿者、豫被參候、其所令獻馱餉給、今日者、依爲齋日、無御狩、終日御酒宴也、手越黃瀬河已下、近邊遊女令群參列候、御前而召里見冠者、義成、向後可爲遊君、別當、只今即彼等群集、頗物忌也、相率于傍、撰置藝能者、可隨召之由、被仰付云云、其後遊女事等、至訴論等、義成一向執申之云云、

〔曲亭漫筆〕大永八年傾城局の券書

京にて見たりし洛中傾城局の券書、紙中堅一尺餘、これ又二百餘年の古書なり、

補任傾城局之事、爲御家恩勢田方に被仰付、就不儀御改易之上者、如先規竹内新次郎重信被仰合事、

右以人所被宛行實也、仍御公用年中仁拾五貫文宛、於有其沙汰者、被仰合訖、若就無沙汰者、雖爲何時、可有御改易者也、仍補任如件、

大永八年 戊子六月二日

春日修理大夫 仲康

按するに、大永は後柏原院の年號、同七年後奈良院即位、大永八年はすなはち享祿元年なり、一年永八年にいたりて、享祿號大と改元、將軍足利義晴、東鑑に、里見冠者を傾城の別當に補するよし見えたり、室町家の時なほ之かり、遊女を傾城といふこと大にふるし、

〔西笑和尚文案〕於祇園社坊傾城遊女被相留、并參詣之衆、施飯被申付之儀、一社中訴訟之通申届候處、已後者堅可有停止之由候、檀那知音之衆、被來候時、振舞等馳走被申ニ付、志次第音信者不苦之由、坊中へも令申候、恐々、

慶長十年七月六日

元信

承允

祇園執行并一社中